

令和4年度 長崎市自然環境調査報告書：水生生物

長崎市自然環境調査委員 深川 元太郎

今年(2022年1月~12月)は、長崎市北部の河川を中心に、水生動物類の生物相調査を行いました。来年には市中央部や南部の角力灘に面した河川、また再来年には橋湾側に注ぐ河川の調査を行い、3年計画で長崎市全体の河川水生動物類について取りまとめる予定にしています。この調査結果については、別途取りまとめて、報告書として長崎市に提出する予定ですが、希少な種の保護の観点から、この報告書については非公開とすることにしています。この一連の調査以外に、10月に端島(軍艦島)で無人島調査を実施しています。無人島については、平成20年以降実施したものについて、本年度取りまとめを行い、長崎市へ提出しています。

◎調査地点と調査方法

調査は、図1に示した赤丸の40地点で行いました。各河川の調査は、河口や汽水域を中心に基本的に1回ですが、一部の河川では複数回行っています。現地調査方法は、主にタモ網を用いた調査に加え、目視確認を行っています。また、河口部では打上貝等水生動物の把握も行っています。なお、長崎市北部地域に位置する黒崎永田湿地自然公園と榎山川については、2020年に1年を通して調査をしたことから、今年を対象から除外しています。

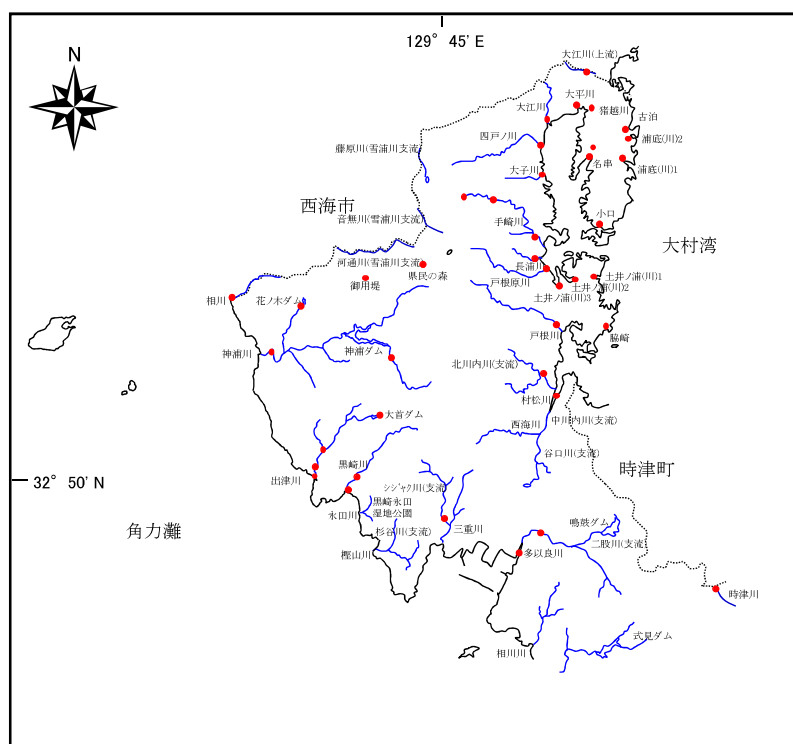


図1. 調査地点の状況

◎調査結果

＜河通川＞ 調査日：2022年9月10日、確認種：県民の森(20種)、御用堤(10種)

雪浦川の支流である河通川の上流部は、長崎市内を流下しており、その一部は「ながさき県民の森」の中を流れています。また、「ながさき県民の森」に隣接する御用堤は、河通川水系と神浦川水系の両方に水が流れ出ています。今回の調査は、「ながさき県民の森」内にある造成された湿地と御用堤周辺で行いました。湿地では、水生昆虫類であるスジヒラタガムシ、ホソクロマメゲンゴロウ、オオアメンボなど希少な種が確認されたほか、ツチガエルやアカハライモリの幼生も確認できています。御用堤では、クロイトトンボやネキトンボなどのトンボ類を確認することができています。



県民の森 湿地



オオアメンボ



ホソクロマメゲンゴロウ

＜相川＞ 調査日：2022年7月10日 確認種：36種

西彼杵半島西側の西海市との境界の河川です。河口は、国道橋付近で、少し遡ったところに落差工があり、その上流側では照葉樹林内を流れています。本年度の調査は、国道橋一帯で実施し、河口付近に打上げられた貝類も含めています。国道橋下の淵では1mを超えるオオウナギを1個体確認できています。また、他の河川では主に上流に生息するタカハヤやヤマトヌマエビが河口付近までみられるのも相川の特徴です。



相川 河口付近



ヒラテテナガエビ



オオウナギ

＜神浦川＞ 調査日：2022年5月3日、確認種：63種(汽水域)。

調査日：2022年11月10日、確認種：14種(花ノ木ダム下流)

調査日：2022年12月3日、確認種：26種(神浦ダム上流、深山橋)

下流部に河川公園があり、夏場を中心に水遊び等で賑わっているところです。調査は、河川公園の下流側である汽水域、河川公園の対岸へ合流する支流上流(花ノ木ダム下流)およ

び神浦ダム上流部で行っています。汽水域では河口干潟等で確認されるウミニナ、フトヘナタリ、ハクセンシオマネキ等のほか、カワスナガニやチチブモドキといった種も確認できています。支流上流では、クロヨシノボリやカワムツといった魚類、ヤマトヌマエビなどの甲殻類が確認できましたが、この場所では上流部にみられるタカハヤを確認することができませんでした。ダム上流では、ルリヨシノボリなどヨシノボリ属3種とカワムツ、タカハヤの5種の魚類を確認しています。



神浦川 汽水域



フトヘナタリ



ゴマハゼ



神浦川支流 花ノ木ダム下



クロヨシノボリ



ヤマトヌマエビ



神浦ダム上流



ルリヨシノボリ



シマヨシノボリ

- <出津川> 調査日：2022年4月3日 確認種：38種(河口)
 調査日：2022年4月3日 確認種：6種(大首ダム流入付近)
 調査日：2022年8月30日 確認種：27種(汽水域)
 調査日：2022年12月3日 確認種：22種(野道橋)

旧外海の出津地区を流下し、角力灘へ注いでいる川です。調査は、4箇所で行っています。河口の調査は、昼間の潮位が低くなる大潮の日に行い、河口に位置する防波堤に付着していた種を中心に確認しています。大首ダム流入付近では、湿地状となっているところを調べましたが、猪によって荒れた状態となっており、春先であることと相まって、確認種が少

ない状況でした。汽水域では、テングヨウジやチチブモドキが確認できています。



出津川 汽水域



チチブモドキ



テングヨウジ



野道橋



クロヨシノボリ



ヒラテテナガエビ

＜黒崎川＞ 調査日：2022年4月3日 確認種：90種

調査日：2022年11月27日 確認種：11種

旧外海の黒崎地区を流下し、角力灘へ注いでいる川です。調査は、4月の大潮干潮時に河口部付近で、11月には国道橋付近から上流側にかけて調査を行いました。河口に打上げられた貝類は河口部に生息する種に加え、周辺海域から打ち上げられたものも含んでいました。汽水域ではスミウキゴリ、ゴクラクハゼ、ニホンウナギ、ヒラスズキの幼魚等を確認しています。国道橋付近では、多数のカワムツに加え、スミウキゴリやボウズハゼといったハゼ類が確認されています。また、川岸の水に浸かった植物にはミゾレヌマエビが多産し、ミナミテナガエビなども見つかっています。



黒崎川 河口部



ヒメアカイソガニ



イソスジエビ



国道橋上流側



モクズガニ



ボウズハゼ

＜三重川＞ 調査日：2022年11月27日、確認種：18種

三重漁港に流れ込む河川で、汽水域上限付近で右岸側から支流のシジャク川が合流しています。調査は、シジャク川の三重川合流点付近から遡りながら約450m上流の支流分岐点まで行っています。主な確認種は、カワムツ、ゴクラクハゼおよびミゾレヌマエビが多産しており、三重川合流点付近ではチチブやニホンウナギが、上流側ではタカハヤが見つかります。三重川でタカハヤが確認されているのは、支流のシジャク川のみとなっています。



シジャク川



コガタノゲンゴロウ



タカハヤ

＜多良川＞ 調査日：2022年8月30日、確認種：48種(河口付近)

調査日：2022年12月31日、確認種：48種(汽水域上限～下流部)

滑石峠付近から新長崎漁港に注ぐ川で、別名二股川とも呼ばれている川です。新長崎漁港が造成される前までは河口付近には広い干潟があったようですが、現在ではかなり小さくなってしまっているようです。それでも長崎市内の数少ない干潟であることは間違いありません。調査は、河口付近の砂～砂泥干潟と下流部を中心に実施しています。多良川は、過去の文献等を含め約340種が確認されていますが、河口の調査ではケシウミアメンボなど48種を確認することができています。また、下流部では2009年に記録していたオイカワを再確認できています。オイカワは、2007年には確認できていないことから、2007～2009年の間にこの川に持ち込まれた国内外来種であると思われます。今回、50個体以上確認していますので、下流部に定着している状況です。



河口部付近



ミヤコドリ



ケシウミアメンボ



下流部



オイカワ



モクズガニ

＜時津川＞ 調査日：2022年12月31日 確認種：8種

時津川の上流部は横尾地区を流下するため長崎市となっています。その河道の大部分は、三面コンクリートとなっており、水量も少ないことと相まって、生息する水生動物がとて少ない状況となっています。時津町との境界線付近に一部護岸されていない場所があり、今回、この場所で調査を行ない、オニヤンマやオジロサナエの幼虫などが見つかっています。



横尾5丁目



オジロサナエ幼虫



サカマキガイ

＜西海川＞ 調査日：2022年4月16日 確認種：72種

旧琴海町の村松地区に広がる泥～砂泥干潟が河口部となっており、明誠高校の横を流下する川になります。この干潟は長崎市内では最大規模で、希少な動物が多数生息している貴重な場所となっています。調査は、この干潟で実施し、ヒメカノコやコゲツノブエ、県の条例で採集禁止となっているイボウミナナなどを確認しています。



砂泥干潟



シラタエビ



クシテガニ



ウモレベンケイガニ



ヒモハゼ



オカミミガイ

＜村松川＞ 調査日：2022年10月23日 確認種：26種

旧琴海町の村松地区を流下し、村松小学校横にある河口は、隣接する西海川の河口部と共に泥～砂泥干潟を形成しています。今回は汽水域上限付近を中心に調査を行っています。調査時期が秋であったことから、アユの群れが汽水域上限付近で確認できています。その他、ハゼの仲間のチチブが多産している状況でした。



汽水域上限付近



ヒメカノコ



カワスナガニ

＜戸根川＞ 調査日：2022年2月6日、確認種：34種

琴海戸根町を流下する川で、春は河川沿いの桜並木が、初夏は中流域のホタルが有名なところですが、調査は、桜並木付近から更に下流側の場所で行っています。調査が早春であったため、確認種数は少ない状況でしたが、汽水域上限付近にはシロウオの遡上が多数確認することができています。



汽水域



シマイサキ幼魚



シロウオ

＜脇崎の小河川＞ 調査日：2022年2月6日、確認種：23種

調査日：2022年8月11日、確認種：26種

琴海戸根町脇崎にあるごく小規模な河川で、放棄された水田脇を流下していますが、水量は少ない状況です。河口部にある砂浜の左側に流れ込んでおり、砂泥上に半ば埋もれた転石が存在している場所です。今回この場所で市内では2カ所目のイドミミズハゼを確認することができます。なお、県の条例によりイドミミズハゼは採集禁止となっています。



脇崎 河口部



イドミミズハゼ

＜土井ノ浦の小河川1＞ 調査日：2022年10月23日、確認種：39種

琴海戸根原町にある「琴海町アコウの樹」の近傍にある小規模な河川です。河口付近は、人工的な砂浜となっており、その右側端へ淡水が流れ出ています。調査は、この河口一帯で行い、砂浜へ打上げられた貝類の把握も行っています。確認された種は、ムシロガイやケマンガイなど内湾性の貝類が多くを占めています。



土井ノ浦1



ムシロガイ



イソシジミ

＜土井ノ浦の小河川2＞ 調査日：2022年8月11日、確認種：40種

琴海戸根原町にあるパサージュ琴海ゴルフ場手前の小河川です。汽水域は三面コンクリートとなっていますが、淡水域になるとコンクリートの護岸は一部のみとなります。河口部にはちいさな漁港があります。今年の調査は、河口部から淡水域にかけて行っています。カワムツやクロダイなどの魚類、ベニトンボやナガサキアメンボなどの昆虫類が確認できています。



汽水域



ベニトンボ



アカミミガメ

＜土井ノ浦の小河川3＞ 調査日：2022年8月11日、確認種：30種

琴海戸根原町にある琴海中央公園横の入江奥部に注ぐ小河川です。河口部では干潮時に砂礫質の小規模な干潟がみられます。淡水域は主に水田脇を流れており、河床が礫～石で構成されています。調査は河口部から淡水域にかけて行い、ミナミメダカやモノサシトンボなどを確認できています。



河口部付近



ミナミメダカ

＜戸根原川＞ 調査日：2022年6月11日、確認種：74種

琴海中部運動公園運動場横に河口があり、源流部には琴海赤水公園キャンプ場がある河川です。調査は河口部に広がる砂質干潟で実施しました。イボウミニナ、シオヤガイ、オクヨウジ、チクゼンハゼなどの希少な種も確認することができます。近くを通りかかった地元の方によると、春には潮干狩りを楽しむ方がいるようですが、あまり食用となるものは採れていないようです。



河口付近



ウロハゼ



テッポウエビ

<長浦川> 調査日：2022年10月23日、確認種：56種

長浦郵便局の近傍を流れる小河川で、汽水域は住宅地の中を流れていますが、上流側では周囲が水田や照葉樹林となっています。調査は、河口付近から淡水域にかけて行っています。確認した種は、カワムツ、スミウキゴリ、ウキゴリ、ゴクラクハゼ、ミゾレヌマエビが多く、流水性のモンキマメゲンゴロウも少なくないようです。



汽水上限付近



カワムツ



チチブ

<手崎川> 調査日：2022年3月5日(河口)、確認種：81種

調査日：2022年3月27日(ダム上流)、確認種：7種

調査日：2022年3月27日(上流)、確認種：4種

長崎市北総合事務所の北側にあり、旧琴海地区では大きい部類に入る河川です。河口は国道206号の手崎橋付近、下流付近は水田地帯となっており、ダムより上流側は照葉樹林の中を流下しています。調査は、河口付近、ダムの上流、林道が途切れる上流部で行っています。河口付近では、河口左岸に広がる砂洲一帯を調査し、リシケタイラギ(死殻)、カニノテムシロ(古い死殻)、チクゼンハゼなどの希少な種が見つかっています。カニノテムシロは、古い死殻1個体で、長崎市からは初めての記録である可能性があります。すでに市内では絶滅しているかもしれませんが、県北部の干潟では生息している場所があるので、市内でも新たな生息地が見つかって欲しいものです。また、上流ではムカシトンボの幼虫を今回も確認することができています。



河口付近



カニノテムシロ



チクゼンハゼ



リシケタイラギ



クボハゼ



ムカシトンボ幼虫

＜大子川＞ 調査日：2022年5月15日、確認種：58種

琴海形上町にある塩竈大山祇神社の南側で大村湾に注ぎこむ小河川です。河口から汽水域は、干潮時には小規模ながら泥～砂質干潟を見ることができます。淡水域は川幅 1～2m の水路となっています。今年の調査は、干潮時に河口の干潟で実施し、ヘナタリ、イオウハマグリ、コメツキガニなどを確認できています。市内の大村湾側においてはコメツキガニは、あまり多くないようです。



河口部



アシシロハゼ



コメツキガニ

＜四戸ノ川＞ 調査日：2022年5月15日、確認種：73種

琴海形上町にある河川で、大村湾の支湾である形上湾に注いでいます。淡水域は下流部周辺では水田・畑地の側を、中上流側では照葉樹林・植林の中を流れています。調査は、干潮時に河口部にある小規模な礫質干潟で行っています。確認種は、ツボミ、コゲツノブエ、マメコブシガニなどです。



河口部



ヒメハゼ



オオノガイ(死殻)

＜大江川＞ 調査日：2022年1月10日、確認種：86種(河口付近)

2022年2月27日、確認種：11種(上流部)

琴海形上町の形上郵便局の横を流れる河川です。河口部や汽水域及び下流部は、長崎市ですが、中流部は西海市を流下しています。また上流部は、西海市と長崎市の境界になっています。大村湾は、長崎港に比べ、約3時間干満が遅れる関係上、冬から春の朝によく潮が引くため、大村湾の河口付近の調査はその時に行うことが多くなっています。

今年の調査は河口付近と上流部で実施し、河口付近では、オキシジミ、スネナガイソガニ、ツマグロスジハゼなどを、上流部ではシマアメンボやドンコなどを確認できています。



河口部



オクヨウジ



ユキガイ(死殻)



上流部



ドンコ



カスミサンショウウオ(卵塊)

＜大平川＞ 調査日：2022年1月10日、確認種：51種

形上湾の奥部に流入している小河川の一つで、河口部付近には砂質の干潟が小規模ながら存在し、淡水域は川幅1~2m程の水路となっています。調査は河口付近で行い、ピリンゴやチクゼンハゼなどが確認できています。



河口部



チクゼンハゼ



チチブ

<猪越の小河川> 調査日：2022年9月24日、確認種：33種

前出の大平川と共に形上湾奥部に注ぐ小河川になります。汽水域右岸側には琴海北部運動公園運動場や琴海北部研修センターがあるため、コンクリート護岸となっています。汽水域上限付近には、ヨシが繁茂した泥質の塩湿地が小規模ながら存在しています。その上流側にあたる汽水～淡水域は両岸がコンクリートの水路となっています。調査は、汽水から淡水にかけて行いましたが、塩湿地は泥が深く、詳細にはできていません。今後改めて行う予定です。ミズカマキリ、シオアメンボ、ミナミメダカなどが確認できています。以前の調査でドジョウを確認していましたが、今回は見つけることができていません。



汽水上限付近



スミウキゴリ



ミズカマキリ

<名串の小河川> 調査日：2022年7月10日、確認種：河口付近78種、淡水域5種

形上半島西岸に位置する小河川です。河口付近は礫質ですが、右側にはヨシ原があり、徐々に泥質へと底質が変わっています。淡水域は放棄水田が主となっており、水量もあまり多くありません。調査は河口付近と放棄水田一帯で行っています。河口付近ではヒロクチカノコ、フトヘナタリ、チゴガニなどが確認され、淡水域ではキイトンボやキアシネクイハムシなどが確認できています。



河口付近



ヒロクチカノコ



サツキハゼ



淡水域



キイトンボ



キアシネクイハムシ

<小口の小河川> 調査日：2022年9月24日、確認種：15種

形上半島先端部にある小河川です。河口～汽水域は三面コンクリート護岸となっており、そこに転石がみられます。淡水域は、林内を流れていますが、水量も少ない状況です。調査は、汽水域～淡水域にかけて行い、シオアメンボ、シマヨシノボリなどを確認しています。

<浦底の小河川1> 調査日：2022年9月24日、確認種：39種

形上半島東岸中央付近にある入江に注ぐ小河川で、河口部は道路下を通るため土管状となっています。また、海側は左側が小規模な漁港となっています。調査は河口付近を行いましたが、時間の都合で潮位が高く、狭い範囲でしか行うことができていません。確認種はゴンズイ、サツキハゼ、シロウミアメンボなど、どちらかといえば内湾域に生息する種類が多い状況でした。

<浦底の小河川2> 調査日：2022年9月24日、確認種：23種

浦底1より北側にある小河川で、汽水域がコンクリート製のU字側溝となっています。調査は汽水域～淡水域にかけて実施し、マハゼ、クサフグ、ミゾレヌマエビなどが確認できています。

<古泊の小河川> 調査日：2022年2月27日、9月24日、確認種：76種(2月)、45種(9月)

浦底の小河川2より北側にある入江に注ぎ込む小河川ですが、浦底の小河川1、2と比べると少し規模が大きい川です。河口部には砂～砂礫質の海岸があり、沖合に向けてやや遠浅

となっています。淡水部は川幅 2m程のコンクリート製のU字側溝となっており、水量も多くありません。調査は、2月には河口付近の打上貝を中心に実施し、9月には淡水域を行っています。河口部にある砂浜にはガンギハマグリが多く打ち上げられており、河口周辺海域に多く生息しているものと思われます。淡水域ではトゲナシヌマエビなどのエビ類のほか、ニホンウナギやミナミメダカなども確認できています。



古泊 淡水部



トゲナシヌマエビ



ニホンウナギ

<端島> 調査日：2022年10月15日、確認種：96種

市内の無人島調査の一環で、今回は端島に上陸して調査を行いました。水生動物は、海岸部(防波堤等)に付着する動物を中心に行いましたが、周知のとおり、島の周辺が防波堤で囲まれているため、調査を行う場所が限定されました。また、今回は小中学校の校庭跡地一帯で陸上昆虫類も合わせて調査しました。水生動物ではアミガサ、ムラサキインコ、イボイワオウギガニなど、昆虫類ではイネ科植物のスウィーピングを中心に行いましたため、ハマベアワフキ、コブウンカ、ゴマフウンカなどイネ科に依存する昆虫類を確認しています。



端島 海岸部 1



端島 海岸部 2



アミガサ



マシマヒメサビキコリ



マダラバッタ



ショウリョウバッタ